

# Interview 駐日ラテンアメリカ大使 インタビュー

## 第34回 ブラジル

### エドゥアルド・パエス・サボイア 駐日ブラジル大使

## 野心的な改革で成長軌道に － 日本とのEPA交渉の早期開始を－



ブラジル連邦共和国のサボイア駐日大使は、ラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、就任後1年を迎えたボルソナーロ大統領の政権運営の成果と課題、外交・通商政策、日本との関係等について見解を表明した。同大使は、在米国大使館及び在ボリビア大使館公使参事官、連邦上院外交国防委員会外交補佐官、外務大臣官房長等を歴任し、2018年12月から駐日特命全権大使。インタビューの一問一答は次の通り。

#### 日本の印象

－大使は日本に着任されて約1年になりますが、日本についてどのような印象をお持ちですか？これまでの日本滞在で最も印象深い思いでは？

**大使** 日本を訪れる人は誰でも、日本社会の優れた組織力と国全体の効率の良さに直ちに感銘を受けます。日本は技術が進歩する中においても、独自の洗練された文化を維持しています。個人的には、天皇陛下の即位礼正殿の儀に深い感銘を受けました。また、ボルソナーロ大統領がその式典に出席できたことをうれしく思います。

#### 野心的な改革を推進

－ボルソナーロ大統領が就任してほぼ1年になりますが、これまでの大統領の政権運営をどう評価していますか。

**大使** ボルソナーロ政権は、必要とされてきた野心的な改革アジェンダに着手することができました。その例としては、最近承認された年金改革のほか、労働法の改正や官僚主義を排し企業により柔軟性を提供する規制の簡素化などのミクロ経済対策が挙げ

られます。これらの措置は既に成果を上げつつあり、2019年第3四半期のGDPは第2四半期と比較して0.6%上昇、2018年第3四半期と比較して1.2%上昇しました。中央銀行は、ベンチマーク金利を2016年の13.75%から今月は4.5%に引き下げ、金利は過去最低水準となりました。インフレ率は年率2.9%以下で、企業及び消費者の景況感指数が上昇しています。失業率は12%前後と高いままですが、これから数か月で減少すると予想されています。もちろん、個別には様々な課題が残されていますが、国全体としては正しい軌道に戻っていると言えます。

#### 年金改革は大きな成果

－年金改革法案の議会での可決は、ボルソナーロ政権にとって大きな成果だと思いますが、今回の年金改革のポイントとその政治的・経済的な効果を教えてください。

**大使** 年金改革は、ボルソナーロ政権にとって初年度における最も重要な優先案件でした。この改革により、10年間で計8,000億レアル（約22兆円）の財政支出を削減することができます。また、現在GDPの

79%に上っている公的債務を、持続可能でバランスのとれたレベルに維持することができます。

今回の改革の究極的な目標は、新しい人口動態に年金制度を適合させることです。ブラジルの平均寿命は1980年の62歳から2019年には76.3歳に上昇する一方、出生率は年々低下しており、現在の出生数は女性一人当たり1.7人です。改革の特徴は、年金支給開始年齢を男性で65歳、女性で62歳と定めたことであり、年金の算定方法についても必要な調整が行われたことです。

現政権が発足して一年以内に年金改革案が議会で承認されたことは、ボルソナーロ政権が議会で強い支持を得ていることを示しています。年金改革の多くの部分が上下両院で5分の3の賛成を必要とする憲法改正を通じて実現されたことを考慮すると、そのことがよくわかると思います。

### 経済分野の改革は続く

—政府は、年金改革に続いて、経済の活性化に向けていくつかの改革法案を議会に提出、又は提出しようとしていますが、その狙いは何ですか。

**大使** 経済分野の改革の次のステップは、「連邦協

定改革」、税制改革、公務員改革であり、経済省が既にその概要を提示しています。「連邦協定改革」は、ブラジルの3つのレベル（連邦、州、自治体）の政府間の財政・税制関係を再編成し、過剰な歳出と債務を抑制するための新しいメカニズムの設定を目的としています。この改革案については、既に議会で審議が行われています。他の2つの改革案は行政府で最終決定され、2020年に議会に提出される見通しです。

こうした広範な改革に加え、政府はビジネス環境を改善し、エネルギーなどの主要分野における競争と開放性の向上を図るため、セクター改革を推進しています。インフラ案件の民営化やコンセッションに関する大胆な計画も進行中です。日本などの主要パートナーとの自由貿易協定交渉は、経済の再建と近代化に向けた施策の一つでもあります。

### OECD加盟は当然の動き

—ブラジルは経済・社会制度を先進国との基準に合わせる一助として、OECD（経済開発協力機構）加盟を申請していますが、その狙いは何ですか。

**大使** 世界第8位の経済大国として、ブラジルは主要な経済問題が議論されるあらゆる関連フォーラムに参加するべきです。ブラジルは長年にわたりOECDと強く深い協力関係を築いています。OECDのいくつかの委員会の活動に参加してきており、ブラジルは既にOECDスタンダードのいくつかを採用し実施に移しています。このことは、OECDによっても認知されています。我々は、ブラジルがOECDに正式加盟する時期が来ていると感じています。OECD加盟により、ブラジルと世界の先進経済国との経済的統合がさらに進むことを期待しています。

### 外交は経済に力点

—ボルソナーロ大統領は、これまでの政権の「イデオロギー外交」からの脱却を表明していますが、外交政策における基本的な考え方と優先課題を教えてください。特に、米国、中国、中東との関係はいかがですか。

**大使** ボルソナーロ政権は、強固な経済改革パッケージを進めることにより、ブラジル経済を開放し、グローバル・バリューチェーンに参画するために不斷の努力を続けています。ブラジルの外交政策は、雇用を創出し経済成長を促進するため、より多くの投資を誘致し、ブラジル産品の輸出市場を開拓する



ボルソナーロ大統領

ことに焦点を当てています。これらは、昨年1月のダボス経済フォーラムと昨年6月のG20大阪サミットでボルソナーロ大統領が伝えた主要なメッセージです。私は、大阪でボルソナーロ大統領の会談に同席し、ブラジルへの投資や貿易を促進するためのパートナーシップの構築にかける大統領の決意を直接目の当たりにしました。

2019年には、メルコスールとEU（欧州連合）、メルコスールとEFTA（欧州自由貿易連合：アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス）の間で2つの大きな貿易協定が合意されました。カナダ、韓国、シンガポールとの交渉も進展しています。日本・メルコスールEPAに関する予備的な対話が早期に開始されることを期待しています。

ボルソナーロ大統領は、年間を通じ、広範な二国間訪問を行いました。その結果、政治・経済分野だけでなく、科学技術、防衛、協力など分野においても実質的な合意が生まれました。これらの訪問には、米国、中国、アルゼンチン、チリ、イスラエル、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタール等が含まれています。10月、ブラジルは第9回BRICSサミットとBRICSビジネス・フォーラムを主催しました。BRICSにおいて、ブラジルは科学、技術、イノベーション、デジタル経済を重点分野として推進してきました。12月、ブラジルはメルコスール・サミットを主催しました。会合では、メルコスールの内部プロセスの合理化について大きな進展が見られました。最近、アラウージョ外務大臣は、アンゴラ、ナイジェリア、セネガル、カーボベルデ等のブラジルにとって戦略的な位置にある南大西洋岸のアフリカ諸国を歴訪しました。

### 日本とのEPA交渉の早期開始に期待

—メルコスールについては、アルゼンチンにおける左派政権の復帰にともない、EUとのEPAの最終的な実現に向けて、ブラジルはどのようなリーダーシップを取られるのでしょうか。さらに、日・メルコスールEPA交渉へのブラジル官民の基本的スタンスを教えてください。

**大使** 前述したように、2019年のメルコスールとEU及びEFTAとのEPA交渉の終結は、歴史的な出来事でした。ブラジルは、主要貿易相手国との自由貿易協定のネットワークを拡大することを基本方針としています。韓国、シンガポール、カナダとの交渉も進んでいます。他の国々も、ブラジルとの貿易協

定交渉の開始に関心を表明しています。ブラジルの伝統的なパートナーである日本は、このようなプロセスに取り残されるべきではありません。ブラジルは、2020年に日本とのEPA交渉に向けたスコーリング作業が開始されることを期待しています。EPA締結は、二国間の貿易・投資関係を大きく拡大することにつながります。ブラジルと日本の民間セクター（国家産業連盟（CNI）や経団連など）は、EPA交渉の開始を公に支持しています。我々両国は、相互に補完的な経済を持っており、貿易と投資機会の拡大に互いに強い関心を有しています。

### 日本との関係は極めて良好

—日本との関係では、ボルソナーロ大統領が安倍総理大臣と1年間に3回会談するなど、良好な関係が続いていると思いますが、現在の二国間関係をどう評価されますか。また、今後の課題は何だとお考えですか。

**大使** 安倍総理大臣とボルソナーロ大統領による前例のない一連の会談は、我々の二国間関係が極めて良好であることを象徴しています。2019年には閣僚、陸軍司令官、BNDES総裁、国会議員など、多くの要人が来日しました。

両国は、科学技術からエネルギー、投資・貿易から環境・技術協力まで、幅広い課題に緊密に協力して取り組んできました。重要な国際機関、特にWTOや国連安全保障理事会において改革を実現するためのパートナーでもあります。アマゾンでの火災対策に関する日本の貴重な支援に感謝しています。

経済分野においては、未開拓の潜在的な可能性が残されています。二国間貿易は2011年をピークに減少し、潜在力に比べ低い水準に止まっています。関税条件を改善した明確な枠組みがあれば、貿易は拡大します。我々は、メルコスール・日本EPAを貿易の回復と拡大のための不可避の一歩と考えています。

### 日本におけるブラジル人社会30周年を祝賀

—2020年はブラジル日系人が多数訪日し定住を始めて30周年になりますが、何らかのイベントを企画していますか。また、日本在住のブラジル社会に対して、どのような役割を期待しておられますか。

**大使** 日本におけるブラジル人コミュニティ30周年は、ブラジル人の日本社会への貢献に焦点を当てるとともに、111年以上にわたりブラジルと日本を結びつけてきた人的な絆を想起し祝賀する機会です。ま

た、我々としては、日本に住む20万人以上のブラジル人の統合が進み、彼らの自尊心が満たされ、ブラジルとの絆も深まるような様々な取り組みが行われる機会となることを期待しています。

私は、ブラジル人コミュニティの行事、特にブラジル人の人口が最も多い地域での行事に参加するつもりです。2020年の大使館の活動の多くは、30周年に焦点を当てたものになります。1月末に、浜松、名古屋、東京のブラジル総領事館との連携の下、記念切手の発表が行われます。また、ブラジルの議会や日本の国会において、ブラジル人コミュニティ30周年を記念した会合が開催されることを期待しています。我々は、年間を通じて、ブラジル人コミュニティに関するセミナー、講演会、展示会を開催する予定であり、今後の展望や課題、過去30年間における成功談などについて語り合う機会となります。

### 両国を繋ぐ人的な絆に魅了

—日本とブラジルとの関係の進展に向けて、大使として、特に力を入れて取り組んでおられることは何でしょうか。

**大使** 日本との関係強化に向けた多くの機会に恵まれたこの時期に、大使として国に奉仕できることを大変光栄に思います。貿易と投資は、確かに私にと

って優先度の高いテーマです。しかし、私を最も魅了しているのは、二国間関係の人的な側面です。1世紀以上前に日本からブラジルへ、そして30年前にブラジルから日本への移住の流れにより、両国間の人的な絆が結ばれました。日系人はブラジル社会において成功をおさめました。日本のブラジル人は最近やってきて、自分たちの可能性を最大限に引き出すためにはまだまだやるべきことがたくさんあります。

### 読者へのメッセージ

—『ラテンアメリカ時報』の読者に対してメッセージがあれば、お願いします。

**大使** ブラジルは、皆様が思っているよりもはるかに日本に近い存在です。ブラジルとその文化について知るため、大使館のソーシャル・メディア・アカウント (@BrasembTokyo) やウェブサイトを訪れて頂きたいと思います。また、大使館で行われる展示会や講演会にも是非ご参加ください。

(注) 本インタビューの英語全文は、ラテンアメリカ協会ホームページの英文サイトに掲載しています。

(ラテンアメリカ協会副会長 佐藤 悟)

### ラテンアメリカ参考図書案内



### 『ワンダーランド ブラジル — 5つのエリア 未知なる素顔と 7つの魅力』

田所 清克・玉川 裕子 角川文化振興財団発行・KADOKAWA 発売  
2019年10月 263頁 2,500円+税 ISBN978-4-04-884255-6

ブラジル文学等を通じて地域研究を続けてきた京都外国语大学名誉教授と、ブラジルのコーヒー鑑定士の資格をもつ歌人による、ブラジルの素顔、魅力を伝える案内書。

アマゾン河の中下流の大自然が旅人を魅了する北部、植民地化の歴史が古く芸術と文化の宝庫の北東部、サンパウロやリオデジャネイロというメガロポリスで産業と文化の中心である南東部、欧州移民が多く欧州的文化景観の南部、大湿原パンタナルや新首都ブラジリアがあり、農牧業のフロンティアである中西部の5つの地域を紹介するI部、コーヒー、ブラジル大衆音楽、民衆の祭典、国民食とも言えるフェイジョアーダ、国民酒カシャサ(ピンガ)、ポルトガル語だけないインディオの言語、世界をリードするバイオマスの利用という7つのテーマのII部に、移民110周年を迎えるブラジルの文化、文明に参画している日系人についての終章を加え、学術的根拠をもつ地域・文化の解説と短歌、コラムが盛られた読みやすいブラジル理解を助ける入門書。

〔桜井 敏浩〕